

ヤングケアラーかな？

と思ったら (Ⅰ事例編)

**金沢版
ヤングケアラー支援マニュアル
(支援者向け)**

**令和6年3月
金沢市こども相談センター**

はじめに

「ヤングケアラー」とは、障害や病気のある家族、幼いきょうだいなど、ケアを必要とする人がいるために、「本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子ども」のことであり、ケアの責任や負担の重さによっては、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあるとされています。

「ヤングケアラー」は家庭内のデリケートな問題であることから、なかなか表面化しづらく、周囲の大人だけでなく、子ども自身や家族もその辛さに気づいていない、誰にも相談出来ない状態があることが国などの調査結果から見えてきました。

ヤングケアラーに必要な支援を届けるためには、家族の世話をすることもその思いや悩みを受け止め、それぞれの立場に寄り添いながら、関係機関が緊密に連携しながら家族全体を重層的に支援しなければなりません。

このマニュアルは、学校や福祉サービス事業者、民生委員児童委員など、子どもに関わることが多い関係機関を対象としてヤングケアラーへの理解を深め、その存在に気づくとともに、見守りや寄り添い、事例を活用し具体的な支援につなげられるよう作成しましたので、支援の参考にしていただければ幸いです。

令和6年3月

I (1) 事例編の使い方

ヤングケアラーの理解から始めたい方はIII基本編へ →

事例編から心配な状況に当てはまりそうな事例を選ぶ

選び方のポイント

STEP
01

- こども（ヤングケアラー）が生活している家族に注目
- 学校などの所属先、他の家族に対する関係機関や支援者がいないかを確認

- (1) 学校編 P 3
精神疾患の母親のケアを担う小学5年生女子への支援
- (2) 生活福祉編 P 5
家庭の経済困窮を支える中学3年生男子への支援
- (3) 障害福祉編（身体障害） P 7
身体障害の父母のケアを担う中学3年生男子への支援
- (4) 障害福祉編（精神障害） P 9
精神疾患の母親のケアを担う小学4年生男子への支援
- (5) 障害福祉編（知的障害） P11
知的障害のある弟のケアを担う中学1年生女子への支援
- (6) 高齢者福祉編 P13
徘徊する認知症の祖父がいる小学4年生男子への支援
- (7) 医療・看護・保健編 P15
祖母と母親のケアを担う中学1年生女子への支援
- (8) 地域編 P17
家族の通訳を担う中学3年生女子への支援

選んだ事例を参考に、支援の流れを掴む

STEP
02

- ① 気づきシート（大人向け）で、情報を整理
- ② 気になることがあれば、気づきシート（こども向け）で質問項目を整理
- ③ こどもに声をかけて、情報収集
- ④ アセスメントシートで、子どもの状況を理解

STEP
03

支援者として、できることを整理する

STEP
04

関係機関や相談機関につなぐ

STEP
05

支援や見守り体制を確認し、支援する

(1)ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例【学校編】

CASE 1：精神疾患の母親のケアを担う小学5年生女子への支援



- 家族構成：母親（精神疾患）、本人、弟（5歳）
- 本人：明るく思いやりがあり、友達の多い小学5年生の女子
- 関係機関等：小学校

気づく

- 最近宿題の提出漏れが目立つようになる。本人から担任に、「宿泊体験学習は絶対に行かないといけないのか」と尋ねてくることがあった。
- 担任が話を聞いたところ、3か月ほど前から母親の状態が悪く、休職している。母は「お金のことが心配」と不安を口にすることが増えた。
- 母親の気分が安定せず、長いときは2時間ほど話し相手になることがある。
- 弟の世話を含め、本児が洗濯や料理などの家事全般を担っている。

つながる

- 学校（管理職）とこども相談センター（ヤングケアラー相談窓口）が情報共有。
- こども相談センターが中心となり、対応方針を検討
 - ①本人との会話、連携先の検討
 - ②母親のケアの状況等の確認
 - ③対応の大まかな方針検討

支援する

- 本人は担任やこども相談センターに家の状況を話せたことで気持ちが楽になったと話す。これからも話を聞いてもらう機会を持ちたいが、こども相談センターよりも担任が学校に来ている相談員と話がしたいと希望したため、2週に1回のペースでスクールカウンセラーとの面接を行うことになった。
- 弟が所属する保育所と情報共有。身なりや登園状況等について気になることがあれば連絡してほしいと依頼。
- こども相談センターが母親と面接し、母親に精神科の受診歴があると分かった。母親に了解を得て、こども相談センターが精神科病院へ連絡するとともに母親の年金受給や訪問看護の派遣等の調整を依頼した。

見守る

- 小学校は、スクールカウンセラーとの面接を継続するとともに、チェックリスト（学校編）で、引き続き本人の様子を見守り。
- 病院相談員と病院や母の状況について、関係機関と情報共有。
- 保育所で、母や弟の様子を見守り。
- こども相談センターは、家族状況や本人のケア負担の変化、ライフステージ等に応じ、適宜支援内容の見直しを図る。

Point!

- ・チェックリスト（学校編）
IV様式編P6へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール（大人向け）
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール（こども向け）
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツール
II活用編P11・IV様式編P3へ！

Point!

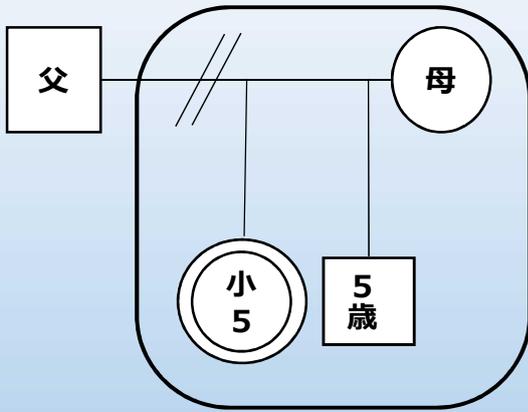
- ・こども相談センター（ヤングケアラー窓口）
[TEL:076-243-4158](tel:076-243-4158)

Point!

- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
IV様式集P12へ！

気付き

ジェノグラム (家族関係図)



<記号の例>

○ = 女性 □ = 男性 (本人は二重)

● ■ = 死亡

<配偶者関係> 基本は男性が「左」、女性が「右」

— 婚姻 --- 同棲 (内縁) / 別居 // 離婚

<同胞関係>

配偶者を結ぶ横線の下に、年齢の順に左から記入

同居しているメンバーは○で大きく囲む



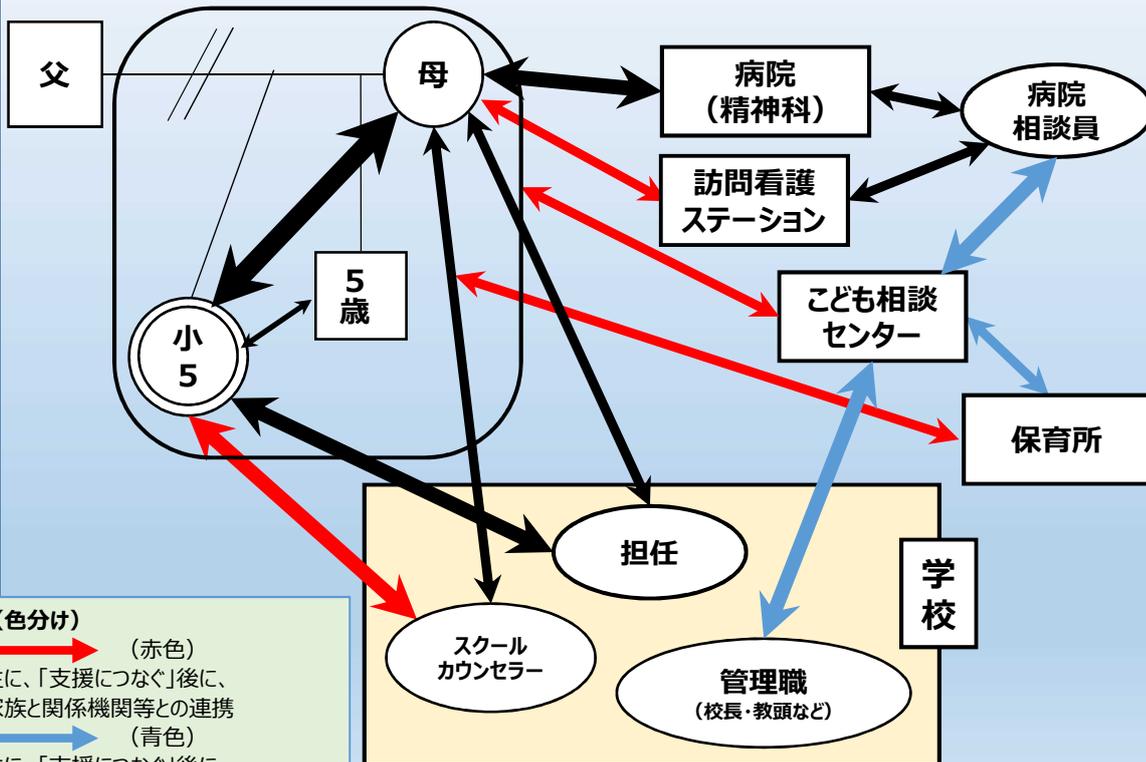
見守り

エコマップ (支援関係図)

(環境と結合の表記)

▲ 実線の太いものほど重要、もしくは強い関係

→ 資源・エネルギー・関心の流れ



(色分け)

↔ (赤色)
主に、「支援につなぐ」後に、
家族と関係機関等との連携

↔ (青色)
主に、「支援につなぐ」後に、
子ども相談センターと関係機関との連携

(2)ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例【生活福祉編】

CASE 2：家庭の経済困窮を支える中学3年生男子への支援

- 家族構成：母親、本人、異父弟（4歳）、異父妹（3歳）
生活保護受給世帯
- 本人：中学3年生の男子
- 関係機関等：生活支援課、学校、保育所

気づく

- 生活支援課が家庭訪問をしたときに、母親は外出しており、こどもだけで留守番。家の中はかなり散らかっており、不衛生。本人が料理や買い物、洗濯などの家事を担っているが十分に回らない状態。
- 弟、妹が体調不良等で登園できない時は、本人が学校を休んで世話をしている。

つなぐ

- 生活支援課とこども相談センター（ヤングケアラー相談窓口）が情報共有。
- この家庭と良好な関係である生活支援課が中心となり、対応方針を検討
 - ①本人との対話
 - ②本人が担っているケアの内容を具体化
 - ③対応の大きな方針検討

支援する

- 生活支援課が家庭訪問した時に、本人から話を聞いたところ、「今は受験に集中したいけれど、家のことがあって時間が取れない」と話した。こども相談センターと現状を共有し、無事に受験が終わり、高校生活が安定するまで、家事支援としてヤングケアラーヘルパーと子育て支援課のひとり親ヘルパーの派遣が決まる。
- 生活支援課が本人に金沢市社会福祉協議会運営の子どもの学習支援教室を紹介し、週1回自宅で大学生のボランティアから受験対策をしてもらうことになった。
- 生活支援課と金沢市社会福祉協議会がこの家庭にこども食堂を紹介し、定期的に利用するようになる。
- こども相談センターから、本人が所属する中学校に、この家庭の状況を伝え、見守りを依頼する。

見守る

- 生活支援課による定期家庭訪問や電話連絡にて、チェックリストに基づいて本人と家庭の様子を確認。
- 関係機関との会議開催等による見守りを実施。変化があればすぐこども相談センターに共有する。
- 家族状況や本人のケア負担の変化、ライフステージ等に応じ、適宜支援内容の見直しを図る。
- 学校は、チェックリスト（学校編）で、引き続き、本人の様子を見守る。

Point!

- ・チェックリスト（生活福祉編）
IV様式編P7へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（大人向け）
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（こども向け）
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツール
II活用編P11・IV様式編P3へ！

Point!

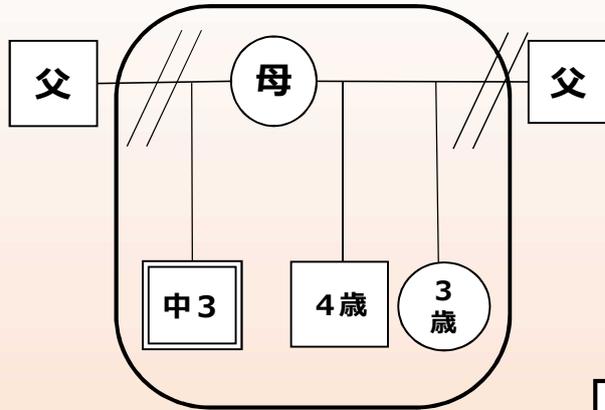
- ・こども相談センター
（ヤングケアラー窓口）
TEL:076-243-4158

Point!

- ・子どもの学習支援教室
（金沢市社会福祉協議会）
TEL:080-7361-9083
- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
IV様式集P12へ！

気付き

ジェノグラム (家族関係図)



<記号の例>

○ = 女性 □ = 男性 (本人は二重)

● ■ = 死亡

<配偶者関係> 基本は男性が「左」、女性が「右」

— 婚姻 --- 同棲 (内縁) / 別居 // 離婚

<同胞関係>

配偶者を結ぶ横線の下に、年齢の順に左から記入
同居しているメンバーは○で大きく囲む

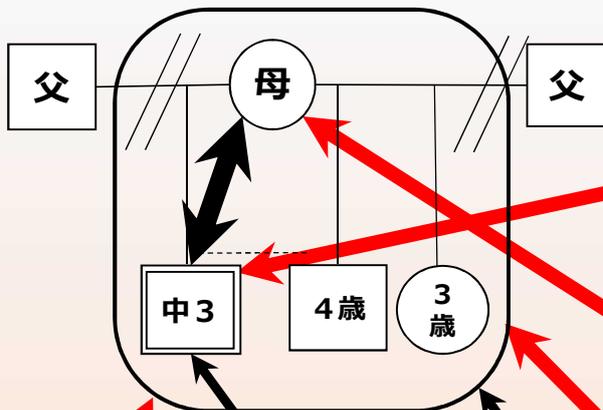
生活支援課

中学校

保育所

見守り

エコマップ (支援関係図)



(環境と結合の表記)

▲ 実線の太いものほど重要、もしくは強い関係

→ 資源・エネルギー・関心の流れ

(色分け)

↔ (赤色)

主に、「支援につなぐ」後に、家族と関係機関等との連携

↔ (青色)

主に、「支援につなぐ」後に、こども相談センターと関係機関との連携

(3)ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例【障害福祉編(身体障害)】

CASE 3 : 身体障害の父母のケアを担う中学3年生男子への支援

- 家族構成：父親（聴覚障害）、母親（肢体不自由）
本人（15歳）

- 本人：中学3年生の男子（受験生）
- 関係機関等：相談支援事業所

気づく

- 夜間、家庭訪問の際、父から公的サービスの手続きなど、本人に通訳してもらっていると相談支援専門員が聞いた。
- 母からは「家事や洗濯を手伝ってもらっている。中学3年になり受験の時期だが、家事を手伝ってもらっていることで、こどもの進学に影響が出ないか心配している。本人は自分のことを話したがない、質問をしても話をすり替える。」と、相談支援専門員が話を聞いた。

つなぐ

- 父母から話を聞いた相談支援専門員が、父母の了解を得て、学校に連絡。

支援する

- 中学校の担任が進路面接の際、本人から話を聞こうとするが、家庭のことについて本人から、家族の話は出てこなかったため、本人にヤングケアラーについて、知ってもらう機会として、クラス全体に「知ってますか？ヤングケアラー」のチラシを配布し、ヤングケアラーのことは相談してもよいことであることを伝えた。
- その後、本人から「友達と同じ高校に受験したいと思っているが、家事のことを考えると進学先を変えた方がよいのではないかと
思っている。」と話があった。
- 中学校の担任から、相談支援専門員に本人の話を伝えたところ、相談支援専門員が父母と話をし、父母のヘルパー派遣の頻度について調整した。
- 相談支援専門員から、手話通訳者・要約筆記者派遣センターへ連絡し、必要時の手話通訳派遣を調整した。

見守る

- 中学校の担任は継続して本人を気にかけて、話を聞ける存在であるよう努めた。また、本人の意向を確認しながら、父母とも話をし、進路決定について支援した。
- 相談支援専門員は、本人を含めた家庭の状況を把握し障害福祉サービスを調整するよう努めた。

Point!

- ・チェックリスト（障害福祉編）
IV様式編P8へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（大人向け）
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（こども向け）
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツール
II活用編P11・IV様式編P3へ！

Point!

- ・知ってますか？ヤングケアラー
III基本編P23へ
- ・手話通訳者・要約筆記者派遣センター
FAX：076-233-9011
テレビ電話番号（モペット）
：076-233-9011
TEL：076-233-7729

Point!

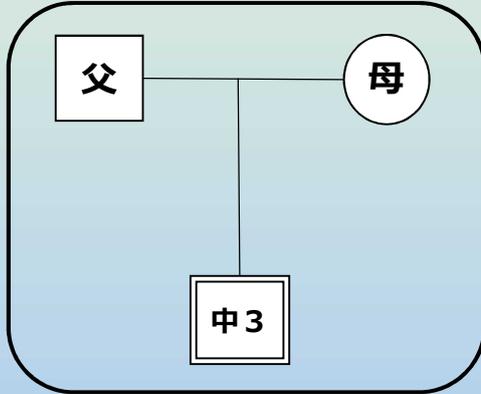
- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
IV様式集P12へ！

気付き

ジェノグラム (家族関係図)

聴覚障害
身体障害者手帳
2級

肢体不自由(下肢)
身体障害者手帳
1級



<記号の例>

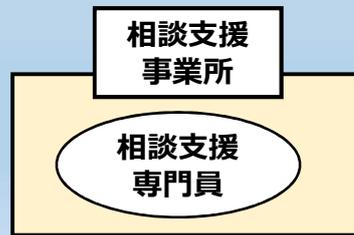
○ = 女性 □ = 男性 (本人は二重)

● ■ = 死亡

<配偶者関係> 基本は男性が「左」、女性が「右」
— 婚姻 --- 同棲 (内縁) / 別居 // 離婚

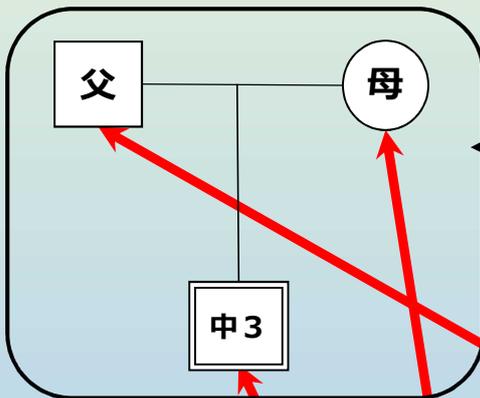
<同胞関係>

配偶者を結ぶ横線の下に、年齢の順に左から記入
同居しているメンバーは○で大きく囲む



見守り

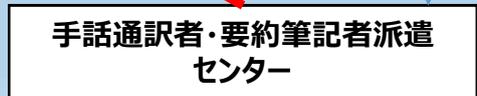
エコマップ (支援関係図)



(環境と結合の表記)

▲ 実線の太いものほど重要、もしくは強い関係

→ 資源・エネルギー・関心の流れ



(色分け)

↔ (赤色)
主に、「支援につなぐ」後に、
家族と関係機関等との連携

↔ (青色)
主に、「支援につなぐ」後に、
子ども相談センターと関係機関との連携

(4)ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例【障害福祉編(精神障害)】

CASE 4 : 精神疾患の母親のケアを担う小学4年生男子への支援

- 家族構成：**母（精神疾患）**、本人、異父妹（2歳）
- 本人：**不登校**で気力がない**小学4年生の男子**
- 未婚ひとり親家庭
- 関係機関等：障害ヘルパー、相談支援専門員、精神科病院

気づく

- 母の支援をしている障害ヘルパーが訪問したところ、自宅にいた本人が、**母の顔色をうかがっていたり、いつも母のそばにいたり、登校時間を過ぎても登校せず自宅にいたり**した。
- **異父妹の身なりが整っていない様子**も見受けられた。

つなぐ

- **こども相談センター**（ヤングケアラー相談窓口）と**情報共有**。
- こども相談センターが中心となり、対応方針を検討。
 - ①連携先の検討
 - ②母親のケアの状況等の確認
 - ③対応のたまかな方針検討

支援する

- **相談支援専門員**を介して、こども相談センターが母に連絡し、母の了解を得て、こども相談センターが**小学校、保育所、母の通院する精神科病院**へ連絡した。
- 保育所から
「**身なりが整っていない**」「**園をよく休む**」
「**送迎に母に付き添って必ず本人がいる**」
「**異父妹の世話を本人がしているようだ**」
との情報を得た。
- こども相談センターが、母の通院する病院へ連絡し、**病院相談員が訪問看護**の調整を行い、母の精神状態の安定を図る調整をした。
- **病院相談員**が障害者相談支援専門員に、本家庭へのヘルパー派遣の回数の調整を依頼した。
- こども相談センターが**小学校へ状況を確認した**。

見守る

- 学校や保育園は、**チェックリスト（学校編・児童福祉編）**で、**引き続き、本人の様子を見守る**。
- 家族状況や本人のケア負担の変化、ライフステージ等に応じ、適宜、**支援内容の見直しを図る**。

Point!

- ・チェックリスト（障害福祉編）
IV様式編P8へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（大人向け）
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（こども向け）
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツール
II活用編P11・IV様式編P3へ！

Point!

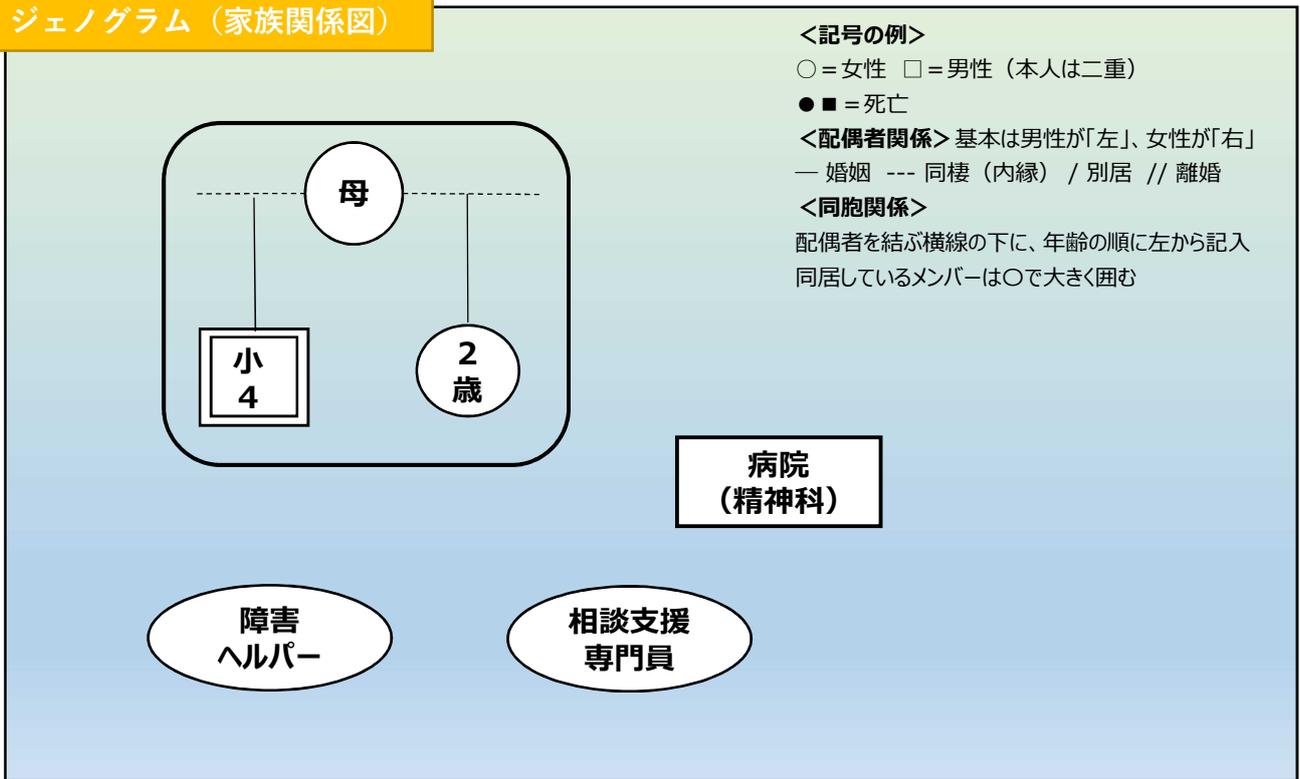
- ・こども相談センター
（ヤングケアラー窓口）
[TEL:076-243-4158](tel:076-243-4158)

Point!

- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
IV様式集P12へ！

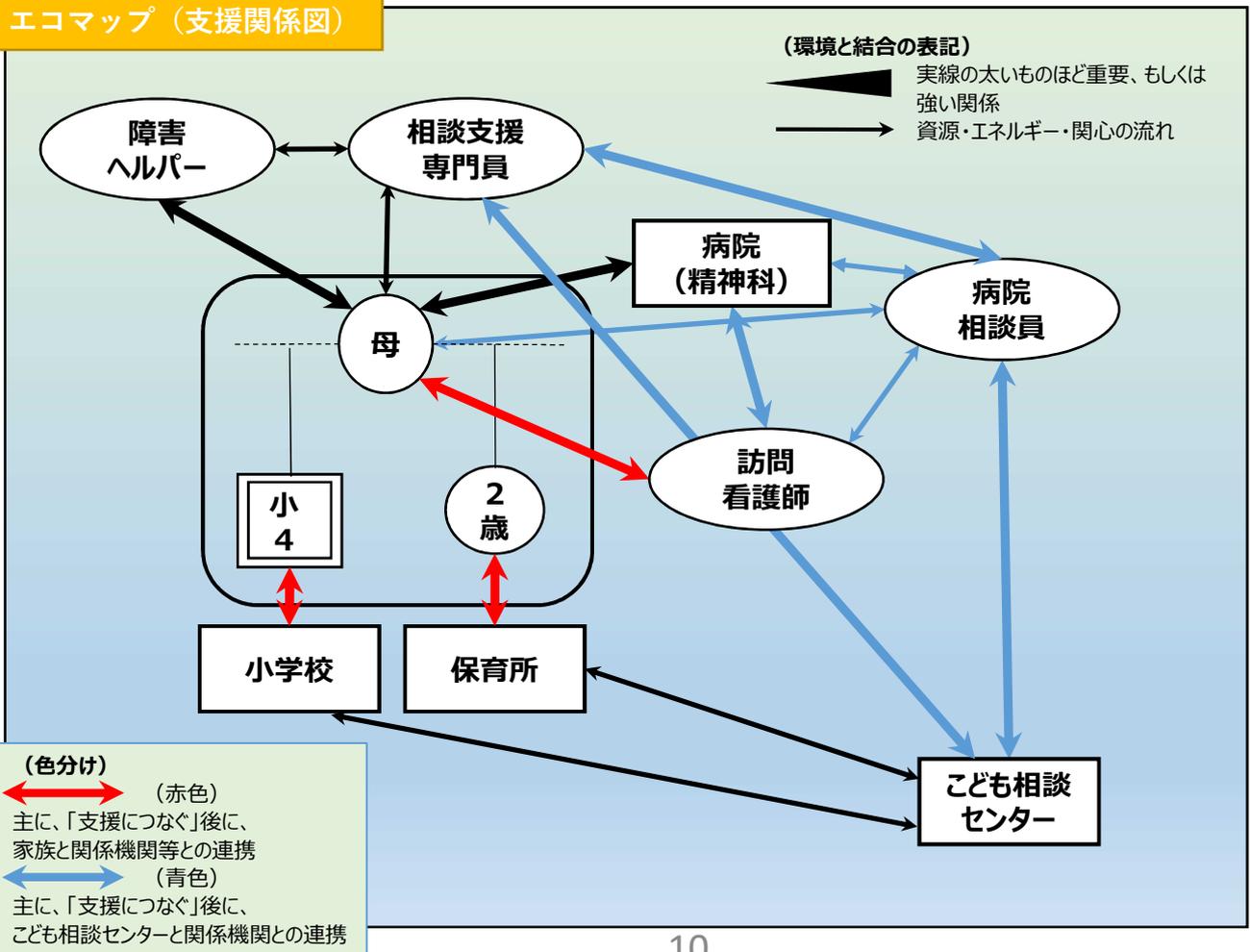
気づき

ジェノグラム (家族関係図)



見守り

エコマップ (支援関係図)



(5)ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例【障害福祉編(知的障害)】

CASE 5：知的障害のある弟のケアを担う中学1年生女子への支援

- 家族構成：父親、母親、本人、弟（小3、重度知的障害）
- 本人：何事にもまじめに取り組み、成績良好な中学1年生の女子
- 関係機関等：相談支援員

気づく

- 弟の相談支援専門員が家庭訪問し、母に自宅での弟の生活の様子を聞いている時に、父母は仕事や弟の世話に追われて余裕のない様子であり、母は本人からの世話をあてにしていること、本人が沈んだ表情で母や相談支援専門員を見ていたことが気になった。
- 相談支援専門員が本人に声をかけると、年齢より大人びた印象で、気を遣いすぎるような様子で受け答えをしていた。
- 相談支援専門員は本人の様子が気になり、母の了解を得て、本人にも個別に話を聞いた。
- 本人は「弟の世話をすることで、部活や勉強の時間が制限されることを仕方がないことと思っているが、親には言えない」と話した。

つなぐ

- こども相談センター（ヤングケアラー相談窓口）と情報共有。
- こども相談センターが中心となり、対応方針を検討。
 - ① 連携先の検討
 - ② 本人への情報提供
 - ③ 対応の大きな方針検討

支援する

- 相談支援専門員は、本人の時間を確保し、弟の療育を充実させる観点から、放課後等デイサービスの利用を母に勧めた。
- 相談支援専門員は、本人に、きょうだいやヤングケアラーに関するウェブサイトやSNSを紹介し、一緒に見ながら、本人の体験や気持ちを聞いた。
- こども相談センターは、中学校に情報提供と見守りを依頼、弟が所属する特別支援学校小学部と情報共有した。
- 本人は紹介されたサイトで同じ境遇にいるこどもの情報を得たり、SNSで相談することで、親には言えない気持ちを整理できるようになった。

見守る

- その後も、弟を含め、家族についての負担も考慮しながら相談支援専門員が障害福祉サービスの調整や面接を行った。
- 家族状況や本人のケア負担の変化、ライフステージ等に応じ、適宜、支援内容の見直しを図る。
- 中学校は、チェックリスト（学校編）で本人の様子を見守り。

Point!

- ・チェックリスト（障害福祉編）
IV様式集P8へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール（大人向け）
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール（こども向け）
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツール
II活用編P11・IV様式編P3へ！

Point!

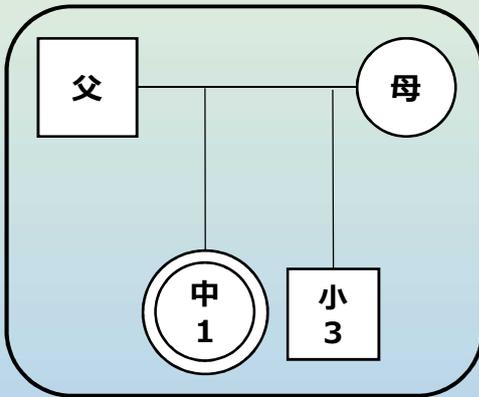
- ・こども相談センター
（ヤングケアラー窓口）
TEL:076-243-4158

Point!

- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
IV様式集P12へ！
- ・ウェブサイトの具体例
V資料編P23へ！

気付き

ジェノグラム (家族関係図)



<記号の例>

○ = 女性 □ = 男性 (本人は二重)

● ■ = 死亡

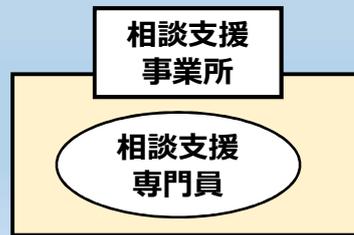
<配偶者関係> 基本は男性が「左」、女性が「右」

— 婚姻 --- 同棲 (内縁) / 別居 // 離婚

<同胞関係>

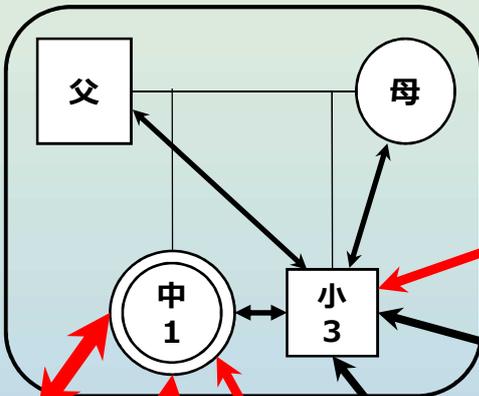
配偶者を結ぶ横線の下に、年齢の順に左から記入

同居しているメンバーは○で大きく囲む



見守り

エコマップ (支援関係図)



(環境と結合の表記)

▲ 実線の太いものほど重要、もしくは強い関係

→ 資源・エネルギー・関心の流れ

(色分け)

↔ (赤色)
主に、「支援につなぐ」後に、
家族と関係機関等との連携

↔ (青色)
主に、「支援につなぐ」後に、
子ども相談センターと関係機関との連携

(6)ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例【高齢者福祉編】

CASE 6：徘徊する認知症の祖父がいる小学4年生男子への支援

- 家族構成：祖父（認知症）、父親、母親、本人
- 本人：明るく活発な小学4年生の男子
- 関係機関等：デイサービス職員

気づく

- 認知症の祖父は夕方までデイサービスに行っており、デイサービス職員が自宅まで祖父を送り届ける際は、いつも本人が祖父を迎え入れている。
- 父母ともに仕事が忙しく、祖父の帰宅時間に、間に合わないことから、本人が迎え入れていることに、デイサービス職員が気づいた。
- 本人は祖父の帰宅を待つため、友達と遊ぶ時間がなくなっているようである。
- 認知症の祖父がひとりで自宅を出て、帰ってこられなくなってしまう可能性もあるため、本人は家を離れることができない状況にあるのではないかと心配していた。

つなが

- こども相談センター（ヤングケアラー相談窓口）と情報共有し、こども相談センターが中心となり、対応方針検討。
 - ① 本人との対話、連携先の検討
 - ② 祖父の支援状況等の確認
 - ③ 対応の大きな方針検討

支援する

- こども相談センターから地域包括支援センターにサービスの利用状況を確認した。ケアマネジャーは、祖父のデイサービスからの帰宅時間を父または母の帰宅後の時間に遅らせる調整を行った。
- こども相談センターが、父母と本人と面接を行い、父母の帰りが遅くなる週2日は、ヤングケアラーヘルパーを派遣し、デイサービスから帰宅した祖父の見守りを本人と代わり行った。
- こども相談センターから小学校に本人の学校での様子や把握している情報を確認した。

見守る

- 家族状況や本人のケア負担の変化、ライフステージ等に応じ、適宜、支援内容の見直しを図る。
- 家庭を出入りするデイサービス職員やケアマネジャーが本人の自宅での様子をチェックリスト（高齢者福祉編）で見守りを行っていく。
- 小学校は、チェックリスト（学校編）で本人の様子を見守り。

Point!

- ・チェックリスト（高齢者福祉編）
IV様式集P9へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（大人向け）
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（こども向け）
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツール
II活用編P11・IV様式編P3へ！

Point!

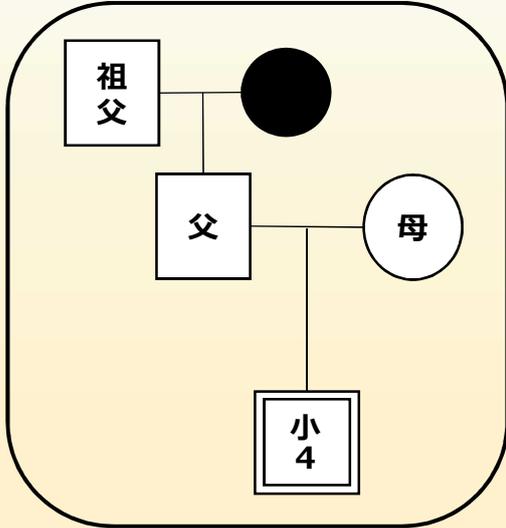
- ・こども相談センター
（ヤングケアラー窓口）
TEL:076-243-4158

Point!

- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
IV様式集P12へ！

気付き

ジェノグラム (家族関係図)



<記号の例>

○ = 女性 □ = 男性 (本人は二重)

● ■ = 死亡

<配偶者関係> 基本は男性が「左」、女性が「右」

— 婚姻 --- 同棲 (内縁) / 別居 // 離婚

<同胞関係>

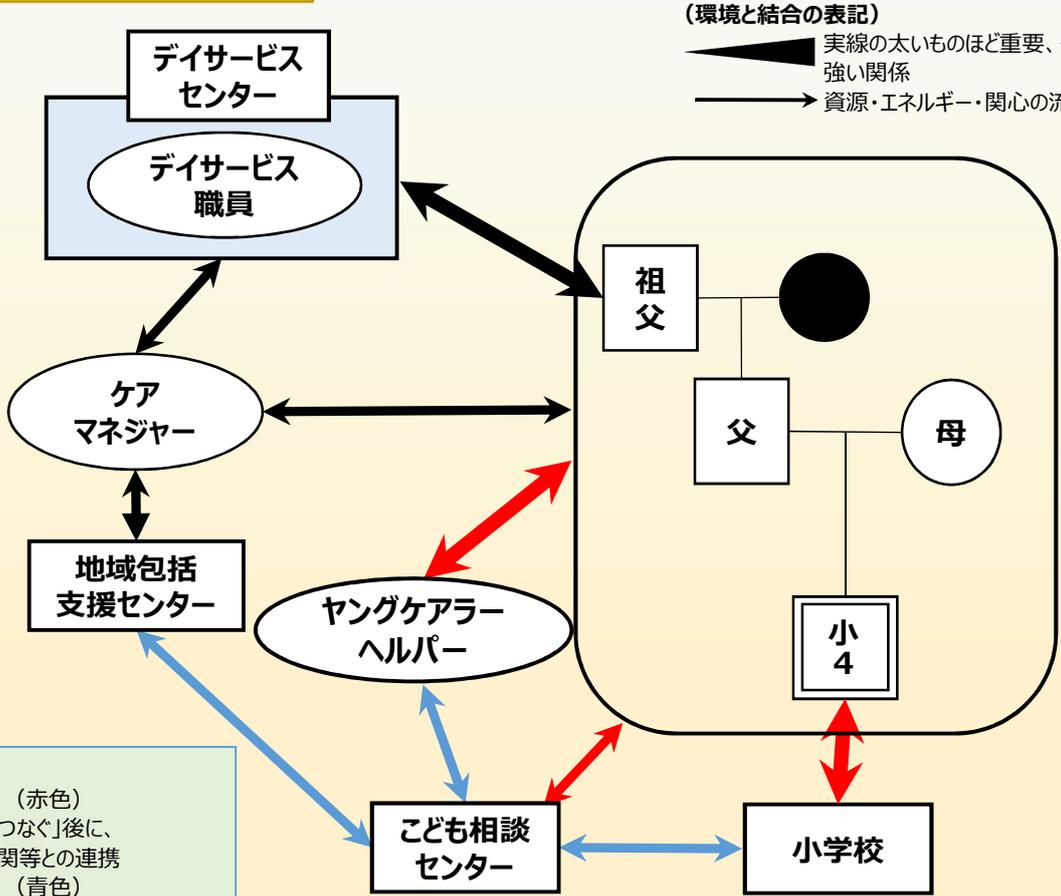
配偶者を結ぶ横線の下に、年齢の順に左から記入

同居しているメンバーは○で大きく囲む



見守り

エコマップ (支援関係図)



(環境と結合の表記)

▲ 実線の太いものほど重要、もしくは強い関係

→ 資源・エネルギー・関心の流れ

(色分け)

↔ (赤色)
主に、「支援につなぐ」後に、
家族と関係機関等との連携

↔ (青色)
主に、「支援につなぐ」後に、
こども相談センターと関係機関との連携

(7)ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例【医療・看護・保健編】

CASE 7：祖母と母親のケアを担う中学1年生女子への支援

- 家族構成：**祖母（認知症）、母親（妊婦、精神疾患）、本人**
- 本人：**中学1年生の女子**
- 関係機関等：福祉保健センター、病院（精神科・産婦人科）

気づく

- 父は3カ月前に、不慮の事故で他界している。
- 母親は、幻聴・幻覚がある他、気分の浮き沈みが強く、**精神科の病院に通院しており、服薬**している。
- 福祉健康センターは**妊娠6カ月の特定妊婦として支援**している。
- 福祉健康センターの保健師が家庭訪問した時に、本人が日常的に**家族の食事の準備などの家事を担う他、母親の服薬管理、祖母の介護**をしていること、さらに、**登校はしているものの学校行事や部活動への参加が減っている**ことが分かった。
- 福祉健康センターは、本人は家族のことを話すことで家族に影響が及ぶことを恐れ、**あまり素直に気持ちを話したがるのではないかと**感じた。

つながる

- 福祉健康センターと**こども相談センター**（ヤングケアラー相談窓口）が**情報共有**。
- 福祉健康センターとこども相談センターで会議を実施し、対応方針を検討。
 - ① 支援機関の役割分担
 - ② 本人との対話
 - ③ 母親及び祖母のケアの状況等の確認
 - ④ 対応の大まかな方針検討

支援する

- 福祉健康センターが、母から本人と話をすることの同意を得て、こども相談センターが、**本人との面接を重ねて関係を構築**。改めて家庭の状況及び本人の心情等を聞き取った。
- 本人から「母の受診の付き添いや服薬の管理が難しい」との発言があり、学校生活にも支障が出ていることが判明。福祉健康センターが**母親の受診の付き添い、服薬の管理を実施した**。
- 祖母はこれまで福祉サービス等の利用がなかったため、こども相談センターが**地域包括支援センターへ連絡、地域包括支援センターがサービス利用に係る申請手続きを支援した**。
- 祖母は、要介護2の認定となり、**ケアマネージャーが中心となり、訪問介護、デイサービスの利用を開始した**。

見守る

- **母親の出産、祖母の認知症進行や介護度の変化など家族状況やライフステージ等の変化**に応じ、**適宜支援内容の見直しを図る**。
- 本人面接や各関係機関の支援継続の中で、**各分野別チェックリストで、引き続き本人の様子を見守る**。

Point!

- ・チェックリスト（医療・介護・保険編）
IV様式編P10へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（大人向け）
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール
（こども向け）
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツール
II活用編P11・IV様式編P3へ！

Point!

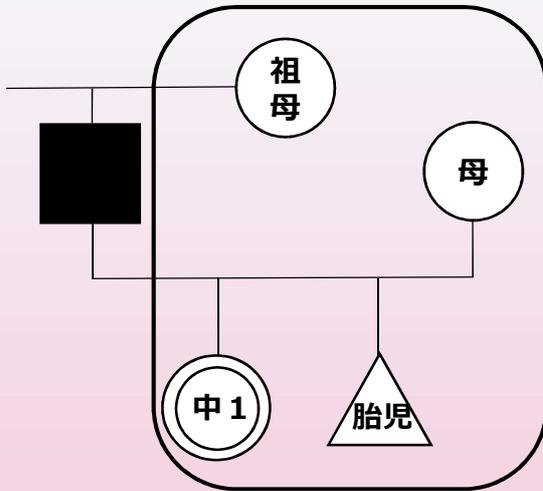
- ・こども相談センター
（ヤングケアラー窓口）
TEL:076-243-4158

Point!

- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
IV様式集P12へ！

気付き

ジェノグラム (家族関係図)



<記号の例>

○ = 女性 □ = 男性 (本人は二重)

● ■ = 死亡

<配偶者関係> 基本は男性が「左」、女性が「右」

— 婚姻 --- 同棲 (内縁) / 別居 // 離婚

<同胞関係>

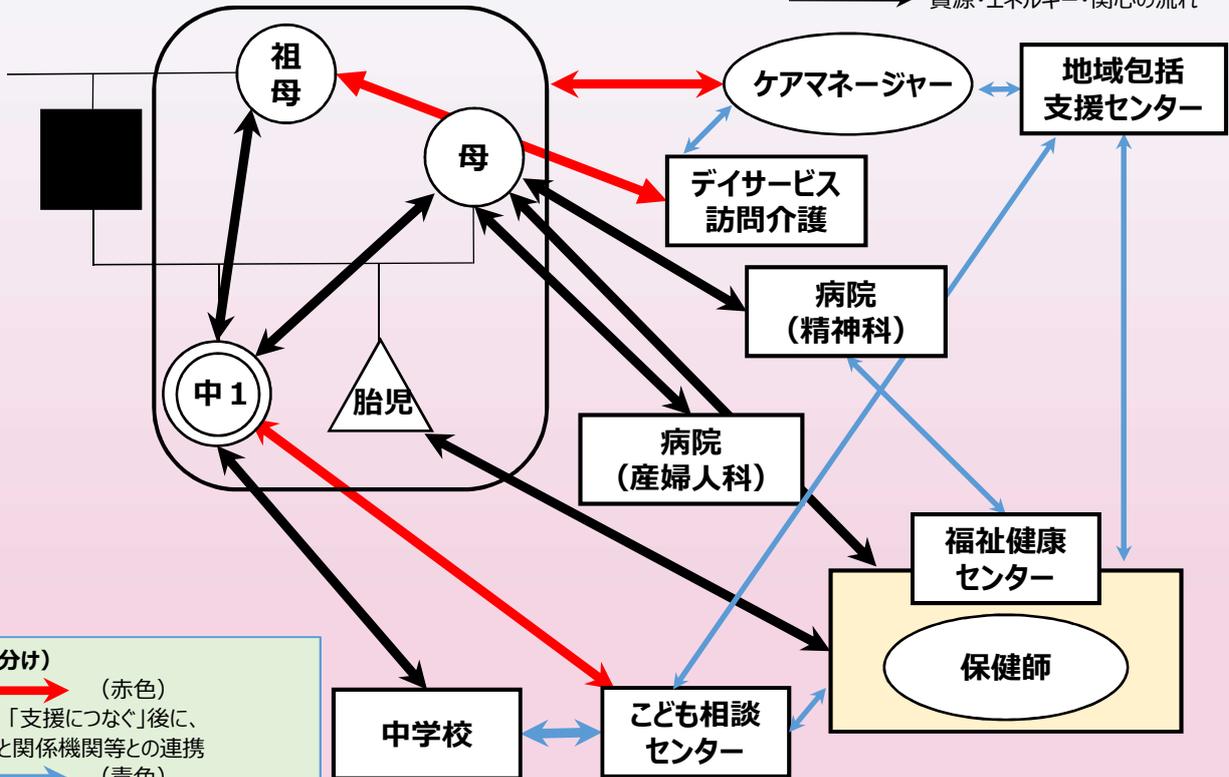
配偶者を結ぶ横線の下に、年齢の順に左から記入

同居しているメンバーは○で大きく囲む



見守り

エコマップ (支援関係図)



(環境と結合の表記)

▲ 実線の太いものほど重要、もしくは強い関係

→ 資源・エネルギー・関心の流れ

(色分け)

↔ (赤色)
主に、「支援につなぐ」後に、
家族と関係機関等との連携

↔ (青色)
主に、「支援につなぐ」後に、
こども相談センターと関係機関との連携

(8)ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例【地域編】

CASE 8 : 家族の通訳を担う中学3年生女子への支援

- 家族構成：父親、母親、本人、弟（小1）
- 本人：真面目で活動的な中学3年生の女子。中国籍。
- 関係機関等：民生委員

気づく

- 2年前に父親と本人で来日した。
- 民生委員が近所の公園で本人と見慣れない小学生の男の子（弟）とで遊んでいるところを見つける。本人に声をかけると、先日、母親と弟が来日したものの、日本語を話せない母親と仕事で忙しい父親の代わりに、本人が弟の転校手続きをしようとしたが、何をすればよいか分からず困っていることが分かった。

つなぐ

- こども相談センター（ヤングケアラー相談窓口）と情報共有し、こども相談センターが中心となり、対応方針を検討。
 - ① 本人を含めた家族との対話、連携先の検討
 - ② 対応の大まかな方針検討
- 民生委員から母親や弟が少しでも早く地域に馴染めるようにこども食堂を紹介した。

支援する

- こども相談センターが、金沢国際交流財団に通訳派遣を依頼の上、母親、本人及び弟と通訳を介して面談し、現状を聞き取る。
- その上で、弟の転校をはじめとする市役所での各種手続きの方法を助言。また、母親に対しては日本での生活に慣れた本人が母親の代わりに過度な負担を強いられることのないよう伝えるとともに、生活上何か困りごとがあればこども相談センターに連絡するよう助言する。
- こども相談センターが、市教育委員会学校指導課と本人と弟が所属する各小・中学校と状況を共有し、見守りを依頼する。
- 民生委員とともに家族で地域のこども食堂を見学し、活動に参加する。
- 弟について、金沢国際交流財団が主催する日本語指導教室に参加する。

見守る

- 家族の生活が落ち着くまで、こども相談センターが本人の学校を訪問し、本人と状況確認の面接を継続する。
- 家族状況や本人のケア負担の変化、ライフステージ等に応じ、適宜支援内容の見直しを図る。
- 学校では、チェックリスト（学校編）で、本人の様子を見守る。

Point!

- ・チェックリスト（地域編）
IV様式編P11へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール（大人向け）
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール（こども向け）
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツール
II活用編P11・IV様式編P3へ！

Point!

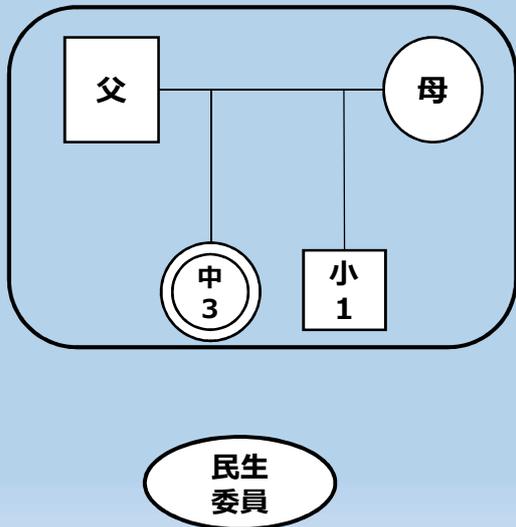
- ・こども相談センター
（ヤングケアラー窓口）
TEL:076-243-4158

Point!

- ・金沢国際交流財団
TEL:076-220-2522
- ・学校指導課
TEL:076-220-2436
- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書
IV様式集P12へ！

気付き

ジェノグラム (家族関係図)



<記号の例>

○ = 女性 □ = 男性 (本人は二重)

● ■ = 死亡

<配偶者関係> 基本は男性が「左」、女性が「右」

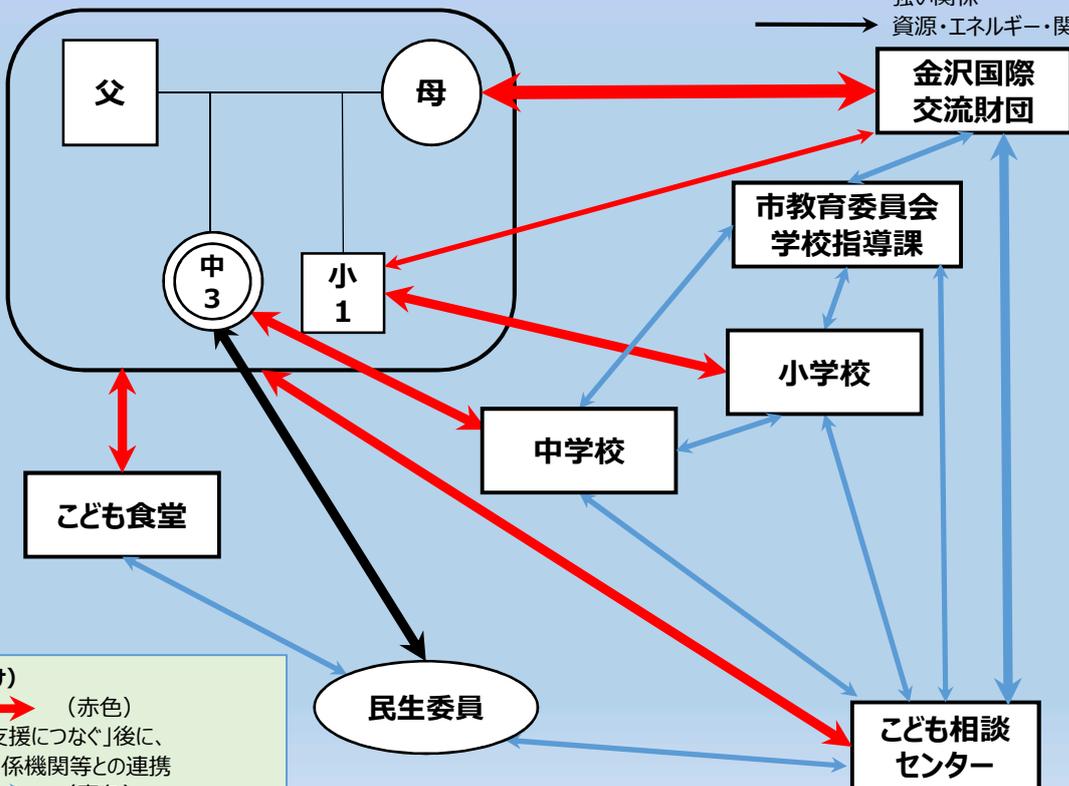
— 婚姻 --- 同棲 (内縁) / 別居 // 離婚

<同胞関係>

配偶者を結ぶ横線の下に、年齢の順に左から記入
同居しているメンバーは○で大きく囲む

みんなで応援

エコマップ (支援関係図)



(環境と結合の表記)

▲ 実線の太いものほど重要、もしくは強い関係

→ 資源・エネルギー・関心の流れ

(色分け)

↔ (赤色)
主に、「支援につなぐ」後に、
家族と関係機関等との連携

↔ (青色)
主に、「支援につなぐ」後に、
こども相談センターと関係機関との連携

